

# 審判の心得

中信地区テニス専門部

## 1. 主審のカウント、アナウンスの例

「アウト」、「フォールト」は直ちに・大きな声で・はっきりとコールする。

- ・ポイントが決まったら、直ちにカウントをアナウンスする。  
「15 - 0 (フィフティーン・ラブ)」、「アドバンテージ OO高校」など。
- ・A高校がゲームをとったら、直ちにゲームカウントをアナウンスする。  
「Game A高校. B高校 leads 3 - 2 (three - two) .」  
「Game A高校. 6 (games) all.」など。
- ・タイブレークでは、常に大きい数字から読み、次にリードしている高校名をアナウンスする。  
「1 - 0 (one - zero) , A高校」、「3 (three) all.」など
- ・サービスレットの時は「レット」のコール後、「ファースト (またはセカンド) サービス」とアナウンスする。「ダブルフォールト」のコールはしない。「フォールト」のみ。

## 2. 主審の進行にあたっての注意

- ・ポイント間は20秒。エンドチェンジは90秒で、60秒たったら「タイム」とアナウンスする。
- ・怪我をした場合、副審は直ちに本部へ連絡する。レフェリー立会いのもと、3分間の治療時間が認められている。主審が治療のタイムを計る。ただし、痙攣は怪我ではないので、他人の助けを受けた場合は失格となる。
- ・オムニコートではボールマークのチェックは出来ない。選手に言われてもチェックしないこと。選手はネットを越えて相手コートのボールマークの確認は出来ない。
- ・ミスジャッジをした場合、「コレクション」と言って訂正する。これは自分自身の判断で行い、選手や応援の言動に左右されてはいけない。
- ・インプレー中にボールがプレイゾーンに入ってきた場合は、直ちに「レット」とコールしてプレーを停止させ、ファーストサーブからやり直す。ただし、コートのだいぶ後ろ、またはネット際に転がってきて、プレーの支障がない場合はそのまま続行する。
- ・第2サービスのモーションの前に隣のコートからボールが転がってきた場合は妨害と判断しない。ただし、サーバーが第2サービスのモーションに入った後にボールが入ってきた場合は、第1サービスからやり直す。
- ・インプレー中にラケット以外の持ち物をコートに落とした場合は、「レット」をコールしてプレーを停止させ、次に何かを落としたり失点（相手のポイント）になることを選手に確認させる。
- ・サービスラインと副審側のサイドラインは副審の判定を重んじるが、主審側のサイドラインとベースラインについては、主審が責任をもってジャッジする。
- ・副審の判定が明らかに誤りであるとき、主審は「コレクション」と言って訂正する。

## 3. 副審の進行にあたっての注意

- ・サービスラインのフォールトは、直ちに「フォールト」とコールし、フォールトした側の腕をはっきりと上げる。
- ・インプレー中をハンドシグナルで示し、自分側のサイドラインのアウトのみ「アウト」とコールし、腕をはっきりと上げる。
- ・何かトラブルが発生したら、副審がレフェリーを呼びに行く。

## 4. 最後に

- ・誇りを持って、大きな声で堂々とコールやアナウンスをすること。
- ・際どいボールは、主審・副審ともにグッドのハンドシグナルを示すこと。
- ・ラリーの往復を見ないで、ボールの落下点（ボールマーク）だけを目で追うこと。
- ・スコアシートの記入が正しくできるようにしておくこと。

# 審判の心得 追加事項

中信高体連テニス専門部

## 1. 痙攣なのか？怪我（肉離れなど）なのか？

選手がプレーを継続できなくなった場合、判断が難しいのですぐにレフェリーを呼ぶこと。

レフェリーが認めた者以外が、選手に触れてしまうと失格になる。

レフェリーの判断により

- ① 痙攣の場合・・・ポイント間の20秒以内にプレーを再開させる。
- ② 怪我の場合・・・レフェリー立会いで、3分間治療時間が認められる（鼻血も同様）。  
ただし、治療後30秒以内にプレーを再開させる。

## 2. 主審のジャッジの範囲は？

主審は全てのジャッジに責任がある。副審のジャッジ範囲についても副審の判断を尊重しても、最終判断は主審である。クレーコートにおけるボールマーク確認請求があった場合は、必ず主審が判断する。

オムニコートにおけるボールマーク確認はしてはならない。

副審の判断の尊重・・・サービスラインと副審側のサイドラインについては、副審の判断を尊重。

副審は声とハンドシグナルで選手と主審に伝える。

## 3. 選手がセルフジャッジ動作をしたら？

審判がつく試合では、選手はセルフジャッジの時のようなジェスチャーをしてはいけない。これは審判に対する威嚇行為とみなされる。審判は警告すること。

## 4. フットフォールトをしていたら？

サーブの構えから打ち終えた瞬間までの間にベースラインを踏む、またはセンターマークの仮想延長線を踏むというのが最も多いケース。違反していた場合は、サーブをした瞬間に「フットフォールト」のコールをはっきりすること。

## 5. 応援について問題があったら？

サービスの構えに入っているのに、まだそのコートの選手を応援する声が出ているのは違反行為。このような問題があったら、レフェリーを呼ぶこと。

## 6. 威嚇行為あったら？

相手に向かって大声を出す、ガッツポーズをするのは威嚇行為。主審は注意すること。